

ふるさと

# ひょうご

令和3年10月号

Vol.141

東京兵庫県人会会報



写真提供 デイリースポーツ

## 特別企画

**渋沢栄一の生誕地を訪ねて**  
近代日本経済の父、その源泉を探る  
大河ドラマ、お札の顔で熱視線

## ふるさとを語る

拓殖大学客員教授 マーケティングコンサルタント  
**西川りゅうじん** さん

令和3年度  
第43回東京兵庫県人会  
**総会・交流会**

～ひょうご五国 広がる五縁（ごえん）～

# 開催決定！

2021年**11月16日**（火）

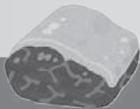
品川プリンスホテル  
アネックスタワー5階 プリンسホール

詳しくは、  
ホームページを  
ご覧ください。

## 県人会活動等PR



## 福引抽選会



県内市町をはじめ、多くの企業関係の皆様からご提供いただいた、神戸牛やホテル宿泊券など、兵庫ゆかりの豪華賞品が当たる大抽選会！

会員の皆様には既にご案内が届いていると思いますが、今年も恒例の、県人会最大のイベント「総会・交流会」を開催します。

テーマは「ひょうご五国 広がる五縁（ごえん）」。総会後の交流会では、県人会活動等のPRや兵庫ゆかりの豪華賞品が当たる福引抽選会など、楽しいひとときをお過ごしいただける催しをご用意しております。

会員の皆さまには、お誘い合わせの上、ぜひご参加いただきますよう、心からお待ちしております。

※緊急事態宣言が発出されるなど、新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止する場合があります。

## ■お申し込み・お問い合わせ

東京兵庫県人会事務局（兵庫県東京事務所内）

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階

TEL：03-5212-9040 FAX:03-5212-9042

E-mail:info@hyogo-kenjinkai.jp



県人会ホームページ



- 03 **特別企画**  
渋沢栄一の生誕地を訪ねて  
近代日本経済の父、その源泉を探る大河ドラマ、お札の顔で熱視線
- 07 **ふるさとを語る**  
拓殖大学客員教授 マーケティングコンサルタント 西川 りゅうじん さん
- 11 **兵庫県新知事メッセージ**  
齋藤 元彦 知事挨拶
- 13 **ふるさとの話題 兵庫県広報戦略課**
- 17 **ふるさと情報便**  
兵庫県内市町からの最新ニュース
- 23 **カムバックひょうご人**  
交流カフェ経営 川勝 恵 さん (南あわじ市)
- 25 **のののの会**  
中堅・若手会員の会
- 27 **県人会だより**  
同郷会・同窓会からのたより
- 29 **兵庫お酒の会**  
「朝来市の魅力&あの銘酒を味わう」オンライン企画
- 31 **われらひょうご人**  
東京但馬会会長 上治 丈太郎 さん
- 33 **尚志館だより**
- 35 **俳句サロン「道草」通信**
- 37 **会員サロン**  
丹波篠山黒豆ナイター開催／篠山鳳鳴同窓会関東支部 事務局長 清水 昭憲 さん (丹波篠山市出身)  
我が社の兵庫県人会／株式会社 三菱総合研究所 井上 貴至 さん (姫路市出身)
- 40 **新規会員のご紹介**
- 43 **見つけた！出会った！ふるさとひょうご**  
アンテナショップ通信
- 45 **読者サロン**  
U5H (兵庫五国連邦) プロジェクト  
プレゼントクイズ

●.....●  
(表紙) 東京2020 オリンピックで兄妹そろって金メダルを獲得！

7月25日に開催された東京オリンピック柔道で、神戸市出身の男子66キロ級の阿部 一二三選手と女子52キロ級の阿部 詩選手が金メダルを獲得しました。

男女の兄妹が同一開催のオリンピックで金メダルを獲得するという日本初の快挙を達成しました。



渋沢栄一が暮らした「中の家」。養蚕農家の形をとどめている

# 訪ねて 渋沢栄一の生誕地を

## 近代日本経済の父、その源泉を探る 大河ドラマ、お札の顔で熱視線

2024年から新1万円札の顔となることが決まり、今年にはNHK大河ドラマの主人公になるなど一躍脚光を浴びる渋沢栄一（1840〜1931年）。第一国立銀行（現みずほ銀行）をはじめ、王子製紙、帝国ホテルなど約500社の設立に注力し、「近代日本経済の父」と称される。兵庫県でも、神戸女学院や神戸電気鉄道、鐘淵紡績兵庫支店などへの関与が分かっており、第一国立銀行の支店があった神戸にもたびたび訪れている。そのパワーの源はどこにあるのか。生誕地であり、栄一ブームに沸く埼玉県深谷市に今も残るゆかりの場所を訪ね、往時の姿を探ってみた。

（神戸新聞東京支社編集部長 小西博美）

## 実業家の原点は深谷に 慈悲深かった母えい

### ◆ 渋沢栄一記念館

最初に訪ねたのは渋沢栄一にまつわる資料を集めた「渋沢栄一記念館」(深谷市下手計)。同館には約150



住民が持ち寄った資料などを展示する渋沢栄一記念館

の資料が展示されているが、多くは住民が持ち寄ったもので、手作り感にあふれた記念館だ。2019年4月に新1万円札への採用が決まり、同9月にNHK大河ドラマの主役が決まった。一気に栄一への関心が高まり、同年の入館者は前年の6倍以上の約10万人になったという。

栄一は天保11(1840)年、現在の深谷市血洗島(ちあらいじま)に生まれた。渋沢栄一記念館、旧渋沢邸「中の家(なかんち)」などによると、渋沢家は開拓者で、父の市郎右衛門は中の家に婿入り。学問をたしなみ、勤勉で養蚕のほか藍玉を作って販売し、一時は傾いていた同家を立て直した。雑貨や質屋も手掛けかなり裕福な家庭だったという。



記念館では、栄一のアンドロイドによる講演も

同館の館長補佐で学芸員の馬場裕子さんは「当時は近代の新しい扉が開く時期。農民は豊かに暮らす裁量を与えられ、村を治める代官とのやり取りも任されていた」と指摘する。栄一はそんな時代に父の背中を見て育ち、時には藍の買い付けもやらせてもらった。

大河ドラマでも印象的なシーンとして描かれる、村人たちが藍玉の力を競う「藍玉力比べ」。葉っぱが良ければ、藍の発色も美しい。村人がより良い藍を作ろうと切磋琢磨する様子が見える。栄一が作った藍玉番付表は今も同館で見ることができる。番付は単に優秀な農家をたてるだけではない。藍作りが終わって打ち上げの際に、優秀者は藍

作りのテクニクや工夫をみんなに披露する。水を2回から3回に増やしたとか、良い肥料を入手して替えてみたなどの創意工夫を話す。番付が低い者も「来

年はいつちようやってやるか」とやる気をかき立てられ、それがやがて村全体の潤いにつながる。栄一の実業家としての原点は深谷にあった。

また、栄一は多くの社会福祉事業も手掛けたが、これは慈悲深かった母えいの影響とされる。同館では、アンドロイドによる栄一の講演も聞くことができる。

## 養蚕農家の形とどめ 妹夫婦の愛情にじむ

### ◆ 旧渋沢邸「中の家」

その栄一が暮らした「中の家」へ向かう。朝に降った雨がやみ、木々や葉の緑が美しく輝いている。重厚な門をくぐると立派な2階建ての建物が現れた。屋根の上に「腰屋根」がしつらえてある。いずれも栄一の妹ていの夫市郎が上棟した。正門の扉はケヤキの一枚板で作られている。「煙出し」と呼ばれる天窓のある屋根は当時の典型的な養蚕農家の形。この辺りは養蚕が盛んで、家のつくりも「お蚕さんファースト」だった。

現在残る主屋は明治28(1895)年に建てられた。切り妻造りの2階



中の家の立派な門構え。扉はケヤキの一枚板で作られた。

建てで、西側には平屋部分がある。この主屋を囲むように副屋と土蔵、正門、東門が建つ。ていは、明るく朗らかで、栄一に代わり夫とよく家を守った。栄一は、忙しい中でもよく中の家を訪ねた。帰郷の際の部屋は奥の十畳と決まっていたという。夫妻が栄一のために特別念入りに作らせたそうので、



80歳頃の姿をイメージした渋沢栄一のアンドロイド

栄一への尊敬と愛情がにじむ。

現在は中庭から外観しか見ることができないが、奥の十畳の部屋をのぞくと、にこやかに座る栄一さんの姿が。ここでもアンドロイドが観光客を迎える。アンドロイドは12月26日まで登場。来年から、中の家は改修工事を予定している。

また、栄一は「青淵」の号を使った。屋敷の北東には、その由来となった池の跡に「青淵由来之跡」の碑が建つ。

### 「藍香ありてこそ」 渋沢家と深いつながり

#### ◆尾高惇忠生家

中の家からそう遠くない下手計に、尾高惇忠（じゅんちゆう）の生家を訪ねる。ここで栄一と関係の深い惇忠（後に藍香と号した）、栄一



栄一に影響を与えた尾高惇忠の生家

の妻千代、渋沢家の養子となり、飯能戦争で散った平九郎が育った。栄一は幼い頃からいここにあたる惇忠のもとへ通い、論語など多くを学んだ。その影響は大きく、後に「藍香（らんこう）ありてこそ栄一あり」とたたえられた。若き日の藍香や栄一が尊皇攘夷思想に傾倒し、高崎城乗っ取りや横浜外国商館焼き討ちの謀議を行ったのもこの家の2階とされ、その時の文章が渋沢栄一記念館に残る。

また、惇忠は、世界遺産に登録さ

れた「富岡製糸場」（群馬県富岡市）の初代場長を務めた。「フランス人が工女の生き血を採って飲む」といわさされ、最初は工女が集まらなかったが、惇忠が娘勇を入場させたことで何とか集まったという。栄一と共に近代日本の礎づくりに奔走した。

### 移設は1本の電話から レンガ製造への注目再び

#### ◆誠之堂・清風亭

オレンジのレンガが鮮やかな誠之堂と白壁がまぶしいスペイン風の清風亭。二つの建物の移設は、1本の電話から始まった。1997年9月、両建物の保存運動に携わる建築研究家から深谷市教育委員会へ「引き取ってくれないか」と切羽詰まった電話がかかった。当時その電話を受けたという同市文化振興課の主査古池晋祿さんは「これは大変な話だ」とその日のうちに資料を集め、近代日本を代表する建物であることを確認。翌日、市長らが東京都世田谷区へ赴き、移築・復元が決まった。5日後に取り壊される予定だった建物をぎりぎりの段階で救った。



スパニッシュ瓦が用いられた清風亭



色むらのあるレンガが個性的な誠之堂



レンガ造りの外観が美しいJR深谷駅

誠之堂は初代頭取だった栄一の喜寿を記念し、第一銀行行員たちが建設した。あえて色むらを付けたレンガや、祝宴を描いたステンドグラスが目を引く。世界で活躍した栄一をたたえ、西洋建築を中心に中国、朝鮮半島、日本の要素を取り入れた。清風亭はスパニッシュ瓦の屋根やペランダのアーチ、円柱の装飾など当時流行していた南欧田園趣味の建物。こちらは、栄一の後継、佐々木勇之助頭取の古希を記念して贈られた。

栄一は都市の近代化に欠かせないとして、深谷市に日本初の機械式レンガ工場を設立し、今もホフマン輪窯6号窯などが歴史遺産として残る。このため、同市はレンガを生か

したまちづくりにも取り組んでおり、JR深谷駅もレンガ造りが美しい外観だ。誠之堂のレンガも深谷産であることが分かっており、まちづくりの象徴的存在となっている。

### 当時の暮らしぶりを身近に大河、お札…好機に沸く市

#### ◆深谷大河ドラマ館

最後に、深谷生涯学習センター・深谷公民館（深谷市仲町）に設置された深谷大河ドラマ館に立ち寄る。見どころは栄一が育った家を創作したセット。当時の暮らしぶりや商売の様子が垣間見える。ドラマの進行に合わせて展示内容も更新。来年1月10日まで。

栄一ブームに、生誕地の深谷市も沸く。本年度は没後90年の節目で、人材育成やシンポジウム、子どもに仕事体験の場を設けるイベントなどを催している。昨年度に渋沢栄一政策推進部を置き、栄一による町おこしに力を注ぐ。同部の花輪暢彦主任は「深谷イコール栄一という印象を持って帰ってもらえる施策を考えていきたい」と意気込む。

以前から地元商工団体などは

「10万円札キャンペーン」などを展開し、栄一の1万円札への採用は悲願だった。今は土産物としてお札サブレなども登場。官民でブームを盛り上げる。

### 渋沢栄一関連施設マップ



栄一の家を創作したセットがある深谷大河ドラマ館